

昭和電工株式会社 2020年2Q 決算説明会 Q&A要旨

日時：2020年8月13日（木）10:00～11:30

説明者：代表取締役社長 CEO 森川 宏平

代表取締役常務執行役員 CFO 竹内 元浩

*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 日立化成株の統合関連費用について、今下期計上ののれん等償却費 187 億円によって来年以降の年換算額は 380 億円程度で良いか。

A 年内目途にまだ算定中なので仮値となるが、その程度で考えて良い。

Q 優先株と各ローンの利回りはどの程度か。

A 優先株の利回りは 5%を若干下回る程度。シニアローンと LBO ローン全体として平均 1%を少し上回る程度。

Q 日立化成との統合によるコストシナジー実現の方向性を説明して欲しい。

A 3年以内にコスト削減額 200 億円以上を目標として施策を積上げた。購買、事業構造改革、間接部門の経費削減を図る。追加のコストシナジーが出せないかさらに検討中。

Q 事業売却 2,000 億円について、COVID-19 の下、売却の難易度は上がっていないか。

A 両社で検討する中で、目指す事業の姿の実現の道筋が見えてきている。当社グループの何がノンコア事業であるか明確になってきたことが大きな進歩と言える。

COVID-19 の影響で若干後ろ倒しになっている感じはあるが、実現スピードを高めていく。

【エレクトロニクスセグメント】

（HD）

Q PC、データセンター向けの下期回復見込みは。

A PC 向けは厳しい状況が続くが、データセンター向けは堅調。今年 1Q のエアライン向け HDD 出荷量は過去最高で、年間でも 60 百万台と前年比 2 割増。データセンター市場の拡大に合わせて、当社もエアライン向けの拡販に注力している。

【無機セグメント】

（黒鉛電極）

Q 今年の販売数量見通しは。地域別動向は。

A 前年上期販売量は 10 万 t 弱で今年は同 4 万 t 強。前年下期 7 万 t は、今年同 6 万 t 程度を見込む。地域別の販売動向は欧州・北米が厳しく、アジアは比較的堅調。

Q 黒鉛電極と NC の市況前提は。また、下期予想は収益均衡だが自信のほどは。

A 今上期は電極価格が徐々に下がる一方、NC は昨年からの高値在庫で生産したためスプレッドは圧縮した。上期末の低価格適用により NC を市況価格まで切り下げたことで、下期販売量の 6 万 t で損益均衡を実現できる環境を作った。足元 NC の調達価格は十分下がっており、今後とも調達した NC でスプレッドは十分確保できる見通し。

【昭和電工マテリアルズセグメント】

Q 日立化成の今下期の実質的な営業利益は 100 億円程度で良いか。

A 今下半期の実力ベースの営業利益はその程度で良い。情報通信事業は底堅い。モビリティ事業は厳しいが下期から徐々に改善を見込む。新規車種向けに多数採用が決まっており、自動車市場の需給回復時期を注視している。

以上

*本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大が世界経済に与える影響、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
- ・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2020年8月12日発表の弊社決算短信をご参照ください。